

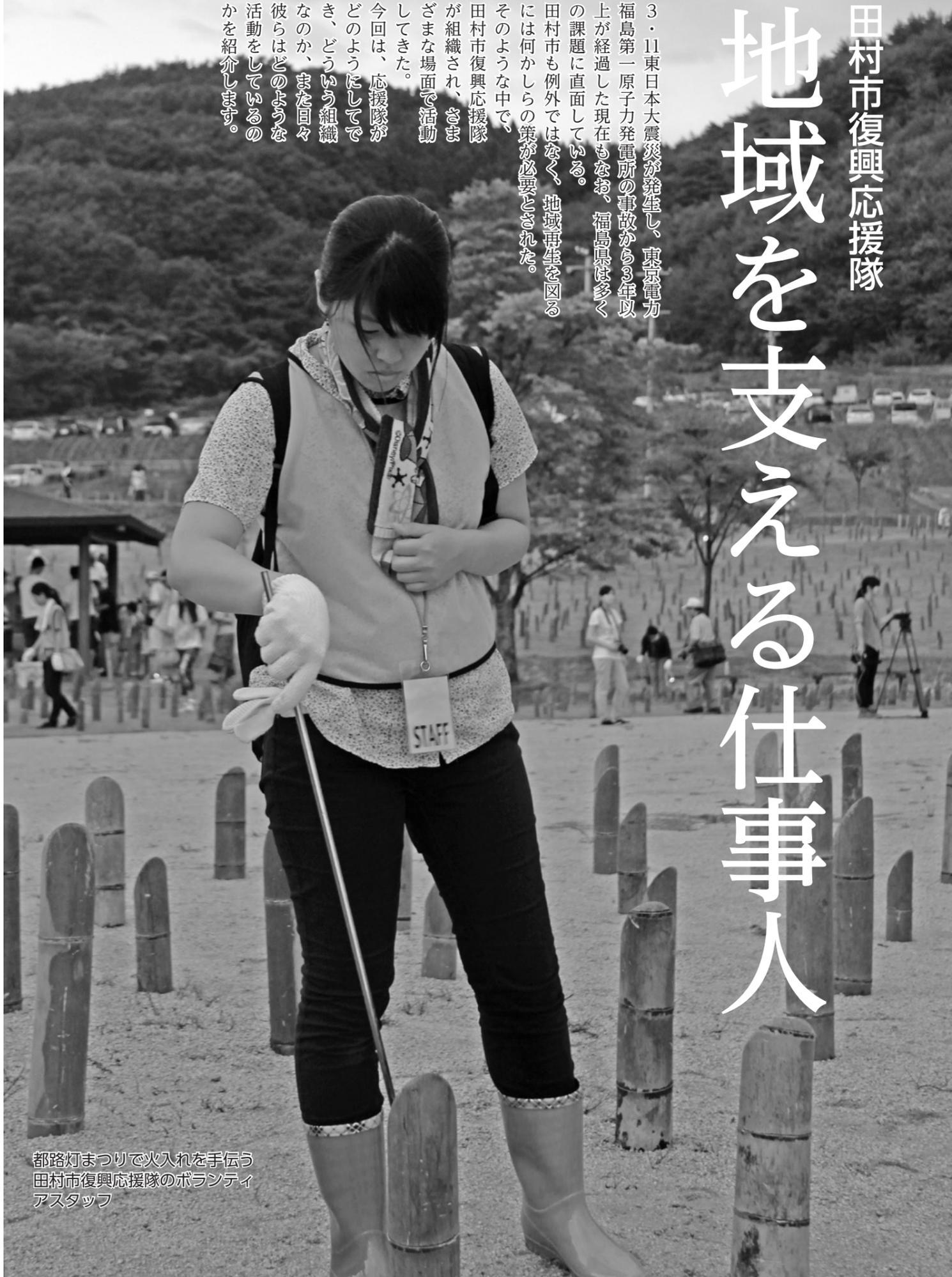


和気あいあい笑顔があふれるチームです

田村市復興応援隊

地域を支える仕事人

3・11東日本大震災が発生し、東京電力福島第一原子力発電所の事故から3年以上が経過した現在もなお、福島県は多くの課題に直面している。田村市も例外ではなく、地域再生を図るには何かしらの策が必要とされた。そのような中で、田村市復興応援隊が組織され、さまざまな場面で活動してきた。今回は、応援隊がどのようにしてでき、どういう組織なのか、また日々彼らはどのような活動をしているのかを紹介いたします。



都路灯まつりで火入れを手伝う田村市復興応援隊のボランティアスタッフ

田村市復興応援隊とは？

復興支援員制度を活用

「田村市復興応援隊（以下、「応援隊」）は、田村市が総務省の「復興支援員」制度を活用し、平成25年7月に特定非営利活動法人コースターに委託して発足した団体です。活動目的は、被災者の見守りやケア、地域おこし活動の支援など「復興に伴う地域協力活動」を通じ、コミュニティの再構築を図ることです。

被災地で活躍する支援員

復興支援員制度は、平成16年に発生した新潟県中越地震での被災地支援の手法をモデルに設置されたものです。現在福島県内では、浪江町や双葉町、新地町などで約50人の復興支援員が避難者の生きがいづくりや地域再生のボランティア受入れ、新たな観光や産業の掘り起し支援などに取り組んでいます。田村市では、

県内外から集まった9人の隊員が日々活動しています。

応援隊は東京電力福島第一原発事故の影響で、全町避難を余儀なくされた都路町の復興支援を主に活動を展開しています（平成26年4月1日に20キロ圏の避難指示が解除され、学校なども再開されました）。避難先からの帰還に係る支援として、高齢者宅の雪かきや草刈りなどの「生活支援」、地域住民の新たな取り組み（応援隊では「復興のタネ」と呼んでいます）を支援する「地域活性化支援」を主な活動としています。

また、これらの活動を行う上で、必要に応じて住民と県内外の人材を繋ぐ「窓口」としての役割や、各種情報を発信・入手することも大切な役割です。

地域を支え、サポート

復興や地域の活性化を行う主役はあくまでも住民で



都路こども園の出迎えをお手伝い

あり、応援隊はサポートをすることが本務です。それには住民の方と多く言葉が交わり、課題の洗い出しや地域の将来を一緒に考えていく必要があります。また、都路町だけで効果的な地域の活性化を行えるものでもありません。市内の各地域や近隣市町村との連携は欠かせません。応援隊が地域間のパイプ役となり、相互に協力し合える地域づくりを目指したいと考えています。